令和７年度第２回池田町まちづくり会議　報告書

日時等　　令和７年11月６日(木)午後６時30分～8時15分、社会福祉センター２階大ホール
出席者　　まちづくり会議委員17名（28名中）
安井町長、餌取副町長
町担当課長等14名、町事務局（企画財政課）５名
※グループワーク報告書に町職員氏名記載

１．開会

２．会長挨拶・町長挨拶

３．報告（説明）事項

「第５次総合計画７年度施策評価まちづくり会議委員意見アンケート回答一覧」につい
て、前回の７月２９日に開催したまちづくり会議で、総合計画施策評価をご覧いただき、意見アンケート回答を後日いただきました。１８名の方から５０施策中２６施策へ計５８のご意見をいただきました。

５０施策中２６施策への意見ということで、約半数の施策へのご意見となりました。結果として、半数２４施策へは「意見なし」ということとなりました。２６施策への意見や内容については事前にお配りした通りとなっています。本日のグループワークを行う総合計画後期基本計画の検討時に、このご意見について確認し、担当係員にも周知しているところです。また、委員の皆さまのグループワーク意見の参考にしていただけたらと思います。

４．協議事項

（１）第５次総合計画後期基本計画素案に基づく協議（意見交換）　（ 18:40～20:10 ）

今回４５分間ずつ２回、それぞれの部会でグループワークを行います。進め方としましては、もうすでに１つ目のグループワークごとの席に座っていただいていますが、委員の皆さまの他に、企画財政課の事務局職員とその分野を担当する役場管理職員がおります。
事務局職員から総合計画後期基本計画素案のこれまでの総合計画との変更点（資料の黄色で色付けしている箇所）を説明させていただきますので、その後に、委員の皆さまから、質問や後期基本計画素案への意見を事務局や管理職員に述べていただけたらと思います。
＜各グループワークの意見等内容については、次ページ以降に掲載＞

５．その他・次回の開催予定

次回の開催予定は、今回ご意見いただきました総合計画後期計画素案を１２月までに修正し、まとめまして１月中に第３回のまちづくり会議を開催する予定です。その会議では、後期基本計画の原案として諮問させていただき、答申を得たいと考えています。

当初、今年度のまちづくり会議は３回を予定しておりましたが、例年３月に次年度予算にかかる説明をしており、今年度も３月に４回目のまちづくり会議を予定しております。

今年度は、総合計画後期基本計画策定年ということで、会議の回数が多くなっております。

６．閉会（20:15）

（令和７年 11 月７日令和７年第２回池田町まちづくり会議）

①産業振興部会　協議結果報告

１）出席状況：部会員（池田町まちづくり会議委員）

①グループワーク：神谷委員、美濃委員、笠井委員、増野委員

②グループワーク：古後委員、鳴海（隆）委員、君島委員

２）出席状況：町職員

地域振興課　清水課長、農林課　佐野課長、ブドウ酒研究所　南所長、

事務局　企画財政課企画調整係　阿部係長

３）協議の内容

①グループワーク

農業

委員）農業センサスで農業従事者を調査しているが、パートなどの労働者がカウントされていないと思われる。農業従事者とその家族だけではないか。スマート農業の推進では、日本も人工衛星の打ち上げを進め、７機目の衛星が打ち上げられれば、精度が上がり自動運転トラクターの性能がもっと向上すると考える。人手不足を補えるようになると考える。

　後継者については、継ぐ人（子）がいるかだけでなく、参入する（新規）人がいるかをもっと考えなくてはならない。作物を何を作るのかを考えながら農業振興してほしい。

委員）スマート農業を推進していくのだろうが、どこまで実現可能かは農業者は疑問を感じている。後継者は間違いなく不足している。地域全体でみても不足している。どうしてもそうみてしまう。心配ではあるが打開策は見えない。

委員）若い方の後継者のパートナー問題についても積極的支援を検討してほしい。スマート農業により労力の軽減を図り、いろいろな人が農業に従事できるようになるのが理想である。

商業

委員）計画に記載してあることは、もっともな内容である。しかし、どう実現していくかが問題であり、計画倒れになってしまってはいけない。商店も家族だけでなく、外国人労働者の採用を考える必要はあるが、地域の理解、町民の理解が必要だと考える。外国人受け入れについて町民に意見を聞いてほしい。ＫＰＩ（重要業績評価指標）の商工業者数に個人事業主もいれてほしい（町：現状で個人事業主も加算している）

委員）具体的対策が必要である。町内商店もタクシー会社も無くなっては困る。池田町に産業があっても、良いアイディアがない。

ブドウ・ブドウ酒事業

委員）ブドウ栽培を行っているが、先人の思いもあり町内をブドウ畑いっぱいにしたいと思い続けているが、ブドウ栽培が農業手段にはなかなかならず、広がらない。上手に栽培している方は生

産額が上がっているようだが、手間もかかる。十勝は畑作が中心で野菜なども育てているが、ブドウは難しいのかもしれない。個人的には十勝の農業者に紹介したいと考えている。

委員）個人的に十勝ワイン好きである。施策もこの通りでよいと考える。町民にもっと十勝ワインを喜んでもらいたい。町民向けにもＰＲしてほしい。ＳＮＳでもＰＲして、人と人との繋がりでもＰＲしてほしい。具体的にどのように進めるかが重要である。

委員）ブドウを新規で栽培してくれる方はいると思う。起業してくれるだろう。ただし、ワイン観光となると宿泊施設が池田町にないので、ワインと観光が結びつかない。そうしたことが実現可能か聞きたいところである。広い範囲を計画に記載しているが、目標は実現できるかどうかである。

消費者保護

委員）消費者トラブル窓口について、どれくらい広報しているのか。相談する人か少ないのであれば、もっとＰＲが必要である。

②グループワーク

農業・商業・工業全般

委員）現状が今一番大切なことはなにか、事業継承がもっとも大切なことだと考える。人が来ないとならない。一番大切である。共通することは、それをどう行政が考えるかを記載してほしい。外国人労働者をいれるとか、そういう窓口を作るとかが重要。ただし、多言語化のように多くの方がいれば問題も多くなる。やり方もいろいろある。行政だけでなく官民一体となってストーリーを作っていきたい。多くの人に興味をもってもらえるようになってほしい。各分野の専門の人も池田に来てほしい。ワンストップ窓口があったらよい。このことを総合的に考えてほしい。農業商業工業すべてが人不足である。

今５０００人で賄うのは、行政だけでは無理であり、ひとつひとつの分野ではなく連携した取り組みが必要である。地域おこし協力隊もすべての人が残るわけではない。分けて考えてはいけない。一つで考えてほしい。分ける必要性はないと言える。農商工連携してほしい。

委員）地方自治が繋がらない状態である。労働力不足は衣食住ができれば人は集まる。住むところと買い物するところがあれば人が集まる。池田町は零細企業が多い。寮を作って企業経営することは池田町の企業では難しい。１つのスポットを創るように政策で考えてほしい。そうすることで興味をもってきてくれる人が必ずいる。

委員）昔は、タクシーは飲み会の帰りに使うものだと考えていたが、今は昼の買い物のために使うようになっている。今と昔では使い方が変わっている。しかし、自分が老人になったときに若いドライバーがおらずタクシーが来てくれるか心配である。

観光

委員）観光、農業が池田の入口になると考える。関連して連携して進めてほしい。林業もわからないが関連してすすめてほしい。難しい問題ではある。池田町に残る人もいる。入ってくる人もい

る。東京でも移住対応をワンフロアで紹介している。移住する人はいる。池田町もまとまって進めた方がよい。

委員）朝早くに外国人観光客がたくさんいる。インバウンドの方がいる。通過観光客は、重量のあるワインを買ってもらえるのか、期待できない場合もあるのではないか。

ブドウ・ブドウ酒事業

委員）現在はいないと聞いたが、外国人労働者をブドウ・ブドウ酒研究所に採用してはどうか。

委員）池田町はワインというネームバリューがある。いろいろなところに池田出身の人が住んでおり、その人ともっと連携してほしい。池田のワインがどこで売っているかをＳＮＳ等で広報してはどうか。うまく活用してほしい。

委員）ワイン城の賛助会員制度は魅力的でよい。また、バスツアーなどもすると理解が深まる。どのワインかがわかる体験ツアーなどもよい。

消費者保護

委員）消費者保護員をする担い手が今後いなくなるだろう。一般の人がするより、行政で取り組んだ方がよい。弁護士に行きなさいというだけで終わってしまう。もっと具体的に対応できる人が話を聞ける方がよいと考える。警察や法テラスに相談してくださいというだけになってしまう。

委員）消費者保護や、労働者保護もある。消費者協会の問題はとても難しい。ハラスメントの問題も増えている。労働者など担い手がいない。社員の対応が難しい。こういう業務をしてほしいと言ったら「それなら、やめる」といわれてしまう。会社も運営は大変である。

※まちづくり開催後の委員連絡による意見

農業

委員）後期基本計画の素案にも、農業経営者不足について記載があり経営規模の拡大等記載はあるが、利用しにくい農地などの未利用農地の拡大が心配される。農業委員会等が中心となり対策をしていくのだろうが、総合計画内により具体的に取り組みを記載できればよいと考える。

委員）農作物被害として、エゾシカ被害が記載されているが、池田町には現在、かなりの数のタンチョウが営巣し、数を増やしている。１、２羽ならまだよいが、１０羽を超える数のタンチョウが農地に出没している現状から、特別天然記念物だからといって、歓迎できるものではない。農業者としては、「被害」があるところとして対策を検討してほしい。

商業

委員）近年、池田町の飲食店の夜間の営業店舗数の減少が心配である。町内で夕食を取ろうと考えても数件の飲食店しか営業していない。労働者不足など理由があってのことだとは思うが、寂しさを感じている。どうにか、夜間の飲食店など営業店舗の確保に努めてほしい

（令和７年 11 月６日令和７年第２回池田町まちづくり会議）

②保健福祉、医療部会　協議結果報告

１）出席状況：部会員（池田町まちづくり会議委員）

①グループワーク：佐藤委員、福本委員、渡邉委員

②グループワーク：髙崎委員、栗城委員

２）出席状況：町職員等

福祉課　岡部課長、保健子育て課　芝木課長、保険係　加藤係長

事務局　企画財政課企画調整係　種川主任

３）協議の内容

①グループワーク

子育て支援

委員）２ページ目の目標指標の「ファミリー・サポート・センターの利用時間数」の目標値が増加しているのはなぜか。増加していていい指標なのか。

委員）アンケートにも記載しているが、妊娠・出産における助成をもう少し拡充してほしい。母子手帳交付前の受診だったり、予定外の検査等の助成を増やしたりしてほしい。妊婦は土地柄的に帯広市等へ受診せざるをえない状態のため、不安がある。医療センターで簡単な心音の確認だけでもしてくれるとありがたい。

委員）アンケートにも記載しているが、出産祝金を前の状態に戻してほしい。

子育て支援（保育環境）

委員）アンケートにも記載しているが、保育園・幼稚園の園児の偏りを解消するように、周知など何か働きかけができないか。0 才～3 才まで保育園に入ったらそのまま保育園にいることが多いが、都市部では３才から幼稚園に編入していることも多いと聞く。小学校に上がるまでに幼稚園で教育を受けられることは強みではないか。周りの状況をみるに、必ずしも保育園の入所が必要な家庭だけではないと思われる。保育士不足で見守りが不十分となってしまったり、発達支援の観点からも対応が困難となってしまったりしてしまうことなども危惧している。

子育て支援（発達支援）

委員）5 ページ目の目標指標の発達支援に関する相談件数の目標値が増えているが、これは増えていい指標なのか。必ずしも多ければよいという指標ではないと思うが、取りこぼしがないようにする必要性もあってこうなっていると思われるが…。個人情報の保護やプライバシーの観点からも、発達支援の相談を受けやすい環境は重要だと思う。小さい町のため、車だけで誰か特定できてしまう現状があるので、そういう点で相談しづらい部分もあるのではないか。

委員）もしかしたら担当ではないかもしれないが、保育園や小中学校に配置されている「特別支援

コーディネーター」（発達支援の子のためについている人？）は何かしらの研修を受けてその立場になっているのか。それぞれで連携はとったりしているのか。

医療

委員）小児ぜんそくで帯広市の病院に定期的に通っている。２ヶ月に１回でも池田町で受診ができるようになったらありがたい。

②グループワーク

高齢者福祉

委員）町内会は高齢化が進んでいるものの、月に１回イベントを開催して集まっている。何か目玉になるような内容でイベントを実施しないと来てくれない。無理矢理にでも家から出てもらうことが必要。評判になれば、声を掛け合って来てくれる。（70 歳代の役員で、来てくれるのは 90 歳代）しかし、関わりたくない人もいるから難しい。やはり会話を楽しみに来ていることが多い。

委員）高齢者でひきこもりの人は把握しているのか。

委員）食事は健康的な身体を作るためには重要である。

（令和７年 11 月６日令和７年第２回池田町まちづくり会議）

③教育、芸術文化、スポーツ部会　協議結果報告

１）出席状況：部会員（池田町まちづくり会議委員）

①グループワーク：富永委員、渡部委員、鳴海（隆）委員、君島委員

②グループワーク：増野委員、渡邉委員、森委員、平井委員

２）出席状況：町職員等

教育課　髙畠課長、教育課　三宅主幹

事務局　企画財政課　砂原主幹

３）協議の内容

①グループワーク

学校教育の充実

委員）施設分離型について　「小５-中４制」は始め驚いた　子どもたちの精神・体の成長など成熟度は確実に早くなっている。リーダーシップも５年生で十分とれる　成長を促せるシステムだと思う。注目している。

委員）５－４制以外あるのか？

職員）子供たちの教育システム文科進めている。義務教育学校　少子化が急速に進んでいる。ひとつの建物が望ましいが、池小・池中など既存の施設を有効活用しながら進める。鳥取県の施設分離型教育学校を視察した。道内では初となる分離型のメリットは２つの体育館が使えたり、椅子のサイズなど、成長にあった教室を利用できる。効率性　前期・後期過程　池小専科指導の充実　教科担任制　「名称：十勝いけだ学園」

委員）義務教育学校について池高の立場は？・施設分離型のきっかけは？

職員）施設の有効活用　池小・池中は多大の費用が掛かる。中１ギャップが小５になる可能性。校長１人となる組織ひとつ　９年間一貫した指導ができる

教育環境整備

委員）目標指標　高校の入学者数　15 名を 40 名（R11 年度）を現実のある目標設定にしてはどうか。40 名は実現不可能でないか、20 名確保するのもやっとの状況。また、カナダペンティクトン国際交流を中高生でいくことも良いのではないか。カナダは中高一貫で交流できる。高校の人数を減らしてでも中学生も参加させてほしい。

職員）過去に財政が厳しく中学生はとりやめた経緯があります。現在、地域おこし協力隊がカナダとの交流の道筋を立てています。地域振興課で進めています。

委員）池田高校の地域連携校になると閉校の猶予あるのか？

職員）ある（２年連続で、１学年１０人を下回らなければ猶予となる）

委員）カナダ国際交流は航空運賃の高騰や物価上昇で一般家庭では困難。行政のバックアップがな

いと継続ができない。基金を活用してでも支えていくべきではないか。

社会教育

委員）中学生にもぜひカナダの国際交流に参加してほしい。

委員）遊ゆう大学は魅力的なカリキュラム（授業）がない。

委員）池田町は高齢化率が高い中で、遊ゆう大学は教育ニーズにあっていない。北海道のオープンカレッジのような文化講座型を実施してはどうか。参加自由なゆるやかな枠で実施してはどうか。メンバー固定。参加者同士の上下関係ができている。聴講生制度や一般町民が参加できる講座など、実施しているかもしれないが。

また、山田町との交流は継続したほうが良い。特に小中高校生が交流できれば良い

職員）令和８年度に向けて、山田町と池田町の中高校生が相互交流できる事業を検討している。（10名程度）

芸術文化活動

委員）子どもたちだけではなく。町民の文化交流的なものを企画してほしい。昔は池田サミットがあった。

委員）指定管理について、しっかり検証した方がよい。池田町の規模にそぐわないのではないか　総合体育館の利用が多くなる夜間に、職員が 17 時に帰ってしまう。ただの貸館だけになっている。専門性のある図書館は分かる。

職員）モニタリングなどで評価検証を毎年実施公表している。田園ホールや体育館もそれなりに講座を企画しているが、評判がよいとは言えない。特に団体や町民とのかかわりが薄くなったのが反省点。人材・団体育成のためにも選定管理の在り方を検討していきたい。

②グループワーク

学校教育の充実

委員）義務教育学校の施設分離型は少子化が進む中で分離型でなくなることも予想しているのか。

職員）児童生徒数の減少により遠い将来的には、池中施設のみとなることも予想される。令和１０年４月に開校する義務教育学校は、道内初の分離型で、体育館 2 か所をはじめ、特別教室を利用調整せずに活用できる。校長が一人で一つの教職員集団を組織し、学校運営を行うことによるメリットの方が多い。令和 7 年度より、新しい義務教育学校名など、開校準備委員会で具体的な検討を進めている。「名称：十勝いけだ学園」

社会教育

委員）遊ゆう大学は参加者が固定化されている。もっと町民に拡げる施策が必要ではないか。ゲートボール協会は固定化し若い人が入らない状態となり解散した。目標を個別に持った方が良い。コミュニティーの固定化や手間の係る事業の割に一部の人だけしか恩恵の受けない事業となっている。若い世代（新たな人）が入る講座がない。

職員）広く町民が参加できる講座も検討していきたい。60 歳過ぎてもほとんどの方が就労している状況である。人間関係にうまく入れない人もいる。煩わしくない形として学年生を今年廃止したが、今後もさらに改善策を模索したい。令和７年度の新入生は残念ながら０人となっています。

スポーツ活動

委員）親としては、中学生になっても、スポーツに携われる環境を残してほしい。部活や地域クラブなど、どのような形態であれ、残してほしい。存続のためには、部活の集約化や広域化も必要となる。

（令和７年 11 月６日令和７年第２回池田町まちづくり会議）

④生活基盤部会　協議結果報告

１）出席状況：部会員（池田町まちづくり会議委員）

①グループワーク：古後委員、森委員、栗城委員

②グループワーク：神谷委員、美濃委員、森尾委員、渡部委員、佐藤委員

２）出席状況：町職員等

建設課　野澤課長、町民課　赤松課長、総務課　的場主幹、消防署　林署長

事務局　企画財政課企画調整係　林主査

３）協議の内容

①グループワーク

防災

委員）災害用ＳＮＳ（Ｘ）は立ち上がっているのか

職員）災害用ＳＮＳ（Ｘ）を行っています。

防犯、交通安全

委員）自社では、犯罪発生時等、要請があればドライブレコーダーデータを警察に提供している。しかし、民間設備では限界がある。町内に防犯カメラを設置し防犯対策を講じてはどうか。安心安全なまちづくりが必要。移住者の増加に寄与するのではないか。

情報通信基盤

委員）デジタルを使用できる人、できない人の差がある、特にできない人へのフォローが大切。今話題の熊出没情報はＸで周知しているのか、もしくは防災無線か、情報伝達手段のアナウンスが大切である。

河川

委員）利別川整備事業（河道掘削・雑木伐採）について、町民が事業概要を理解しているか。目的は災害対策か、開発建設部との調整等されているか。町民へのアナウンスを積極的にしたほうが良い。

委員）伊藤川河道掘削の継続要望（早期完了）。清見２線川河道掘削の新規要望。大雨時の溢水対策は安心な生活基盤につながる。

職員）河川管理者への要望を継続して行い、未整備区間の整備を図って行きたいです。

道路

委員）町内道路の維持・補修・改修を要望したい。高価なカラー舗装を止めて、少しでも補修延長を増やすような方法をとってみてはどうか

職員）カラー舗装は、全線では無く路線を絞って実施しているが、費用的と景観とうを考慮して検討したいです。

ごみ処理、資源循環

委員）資源ゴミと燃えるゴミの分別が出来ていない場合、ステーションにいつまでも放置される。回収してもらえない。資源ゴミステーションの維持管理（修繕）経費について、町内会への助成制度を求める。高齢者世帯の増加により、ゴミの分別が出来なくなってきている。

②グループワーク

消防、救急

委員）消防団員の人員不足への対応として、外国人を登用してはどうか。国籍等で制約はあるのか。消防団員に限らず、人手不足への対応として外国人を受け入れる体制を整えてはどうか。

防災

委員）大雨での浸水原因は、麦収穫後の麦藁がグレーチングを塞ぐことで広範囲の浸水となった事例を聞いた。

委員）災害避難時の要支援者の把握をする。家族の死亡等により支援が不要となった場合の確認徹底が必要である。

情報通信基盤

委員）地震、津波等に対する防災意識の向上が必要。発災時の対応周知の徹底。

河川

委員）支流河川（農業用排水路）の管理が大変。（雑草繁茂）何か良い補助はないか。

職員）補助は無いが、多面的機能支払制度で実施している。年々高齢化や戸数（実作業者）が減り大変だと思います。

下水道

委員）下水道管渠の総延長はどの程度か

職員）205ｋｍと回答したが、実際は60.3ｋｍ（汚水55.9km、雨水4.4km）
（205kmは数年前の水道の延長で答えていた。現在は212.7ｋｍ）

住宅、宅地

委員）相続登記補助は分割しても対象となるか（土地と建物、数筆の土地）

職員）被相続人が所有する全ての土地家屋は補助対象となりますが、利用申請は１回限りです。
※会議終了後の職員確認による回答内容

委員）相続人不明土地は町内に存在するのか。ワイン城観光ルートにある廃墟が見苦しい。住情報ステーションを利用し、Googleストリートビューで確認しながら移住先を決めた。

職員）相続人不明土地は池田町にもあります。

委員）相続登記を自分で行うのは難しい。補助制度の利用件数はどの程度あるか。

職員）相続登記は、令和６年度７６件の申請がありました。

※会議終了後の職員確認による回答内容

※まちづくり開催後の委員連絡による意見

防災

委員）２年ほど前から全町的に防災訓練を行っていると聞いた。今年、高島地域でも防災訓練を行うと聞いたが、その防災訓練のときに、池田市街地に住む役場職員が避難場所である北部地域コミュニティセンターの開錠をするということになっていると聞いた。実際に災害が起きたときに、池田市街地から職員がかけつけることができればよいが、道路が寸断されているなど池田市街地から来られない場合はどのように対応するのかが気になった。高島地域にいる者が開錠できるような手立ても必要ではないか。

（令和７年11月６日令和７年第２回池田町まちづくり会議）

⑤まちづくり・自治体運営部会　協議結果報告

１）出席状況：部会員（池田町まちづくり会議委員）

①グループワーク：平井委員、森尾委員、髙崎委員

②グループワーク：笠井委員、福本委員、富永委員

２）出席状況：町職員等

総務課　山口課長、企画財政課　佐々木課長

事務局　企画財政課財政係　天城主事

３）協議の内容

①グループワーク

広報広聴、情報共有

委員）町のホームページで情報は大体わかるので十分。ＡＩを使った偽アカウント対策は考えているのか。

委員）池田のホームページは見やすくなった。

委員）行政情報は、我々はある程度関心があるが、若者は無関心なのではないか。そのうち紙媒体による方法がなくなるのではないか、対応しなければならないと考える。

住民参加

委員）まちづくりへの関心があるとの回答、爆上がりしていますね

委員）まちづくりへの関心があるとの回答、なぜそんなに上がったのか、あまり感じないが…

男女共同参画

委員）「男女が等しく社会参加できる環境づくり」における現状の満足度についてのパーセンテージを上げるのは難しい。５０パーセントが限度だと思う、そう考えれば三割近くある。女性側はどんな感覚なのだろうか

委員）「男女を等しく」が引っかかる、等しくは難しい、国民性もある、女性に聞いて対等と答えれば平等だと思う。男女関係ない。給料も一緒である。

地域コミュニテイ

委員）担い手不足の問題、頭が痛い…、地域の役員も掛け持ちしないと回らない状況である。

委員）町内会も担い手不足で人を出せない、役員の高齢化もすすんでいる。

委員）役員などをやる人がいないし、みんなやりたくない、これは池田町だけではない。民生委

員にお世話にならない町内会を作ることが理想となる。また、民生委員もなり手がいない。民生委員になる地域居住５年要件を撤廃するなどしたが、それでもなり手がいない、そもそも３１名も必要なのか、見直しが必要だと考える。任期が３年だから３年後を考えないといけない。

移住

委員）移住相談等を経ないでの移住者も多い。また、移住者の定義もあいまいで、実体が見えにくい。移住者のネットワークは、なかなか組織化がすすまない。

委員）以前は移住者同士の懇談会をやっていたが、今は個人情報の観点からなかなかできない。先に移住してきた人たちの話を聞くのが勉強になる。ネットワーク化も必要ではないか。北海道は素晴らしいと思い移住した。はじめは美瑛や富良野を探したが、池田に決めた。

委員）池田町からは出たくない。家賃など（生活費）が安い。

②グループワーク

広報広聴、情報共有

委員）広報いけだはデータ化しないのか、ペーパーレスの時代であり検討すべき。総合計画のアンケート調査、データ数が少なすぎる、回答率上昇とともに分母を増やし回答者数を上げていくことにより、もっと住民意見を把握していくべきである。

委員）５年ほど池田町に住んでいて、ＳＮＳでイベント情報等を見ているが、年々見やすくなっていると思う。広報も毎回目を通しているが、直接手に取れるから紙の広報紙は好きである。若い世代のニーズは少ないので、若い世代の声をどう伝えるべきなのか検討してほしい。

委員）目標が高すぎなくて良い、妥当だと考える。広報紙も池田高校特集を実施したように、柔軟性があっていい。私たちの要望に答えていただいているので満足している。池田町の広報紙は素晴らしいので近隣の町にも、広報いけだが目に付くようにするべき。

池田高校の特集記事、とても良かった。もっと見てもらえると良い。他市町村の中学生・保護者にも見てもらえる機会があれば良いと思った。

職員）広報紙は読み込まなくても見てはくれていると思います。町長日誌は特に読まれています。特集コーナーにも取り組んでいますが、多くの人に読んでもらえるような情報発信に努めています。ホームページでも掲載しており、公区発送との連動を意識し始めたのは２年くらい前からです。

住民参加

委員）このような会議に女性が１人しかいないのが、そういうこと（まちづくり活動への住民参加の減少の危惧）なのか。パーセンテージ（まちづくりに関心があるとの回答）が増えているので、みんなが思うことは同じなのかなと思う。

職員）まちづくり懇談会や町長とのふれあいトーク、勝井町長時代から続けているが、希望地区・団体が減少し、現状では年間数団体にとどまっています。

委員）町長と話がしたいという子育て中の母親は多い。しかし、子育て中の母親は集まりに出ていけない。子どもの集まりに町長に来ていただくとすごく助かる。移動式での開催をお願いしたい。

委員）安井町長は距離感が近い町長です。その結果が、アンケート数字に影響している部分があると考える。

男女共同参画

委員）マイノリティの部分はデリケートな部分があり、池田町は良くも悪くも規模が小さいので、それらについては慎重に進めるべきだと思う。

職員）「施策の主な内容」の④にマイノリティにかかる方針を加えました。しかし、「現状と課題」には整理できていないため、その部分は再検討すべきでしょうか。

委員）現状外国人はどのくらいいるのか、５年前よりは増えているのか、児童・生徒に外国人が増えていると聞いている。

職員）地域おこし協力隊が、外国人・外国語に係る支援の勉強会を始めたところ。そのような取り組みを補足することを検討したい。

委員）男女等しくは当たり前、一人一人の意識が必要。

地域コミュニティ

職員）地域活動が徐々に厳しくなってきており、役員のなり手不足が顕著に。一部では町内会の再編も検討され始めています。

委員）子育て世代からすると、そのまちの姿勢が公園に見える。池田町は中央公園にごみが散乱しているが、町内会の児童公園はきれいに維持されていると思う。幼稚園の横の８丁目公園はすごくきれいだが、町内会の方々が頑張ってくださっていると感じる。

委員）内容は変えなくていいが災害のリスク（大雨など）が上がっていると思う。

職員）防災意識の高まりもあり、自主防災組織化が一時すすんだが、最近は停滞している。それらも対策していかなければならない。

国際交流、地域間交流

委員）池田高校のカナダ派遣をぜひ中学生・高校生の合同派遣にしてほしい。カナダ側は中高一貫校のため、年齢が合わない部分もあり、カナダ側からも中学生派遣を希望されている。現状は６人を予定しているが、高校３人中学校３人で良いので、既存予算内で対応できる。中学校では行けなかった生徒がいても、池田高校に進学しカナダ派遣に再挑戦するという地元進学の動機づけにもなる。教育分野でも話したが、現在の子どもは精神的成熟度が高く、義務教育学校（５＋４年制）に移行することもあるが、中学生も高校生と一緒に交流できるはず。